

第1学年【国語科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体趣旨	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。
1学年趣旨	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり、想像する力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。

(2) 具体的な評価の方法

次のような項目を、その到達度により評価する。

○授業中の取り組み ○ノート ○定期テスト ○課題 ○作文 ○発表会
○小テスト ○漢字テスト ○自己評価 ○相互評価 など

2 授業実施計画

月	単元・教科名	おもな学習のねらい
4	○オリエンテーション ○詩「ふしぎ」 ○小説「桜蝶」	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の情景や人物の心情を考え、朗読することができる。 ・誌に関連した身の回りの出来事や、自分の体験を話し合うことができる。 ・文学作品の構成について理解し、構成や展開、描写の仕方の違いに気が付くことができる。
5	○説明的文章 「自分の脳を知っていますか」 ○書写 硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、原因と結果、意見と根拠など、情報と情報の関係について理解することができる。 ・文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。
6	○お気に入りの一品を紹介する ○話す聞く スピーチをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から話題を決め、伝えあう内容を考えることができる。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。
7	○文法 「言葉の単位」 ○資料を見て、意見文を書こう ○1学期の国語学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の類別について理解している。 ・日常生活や自分自身の興味の中から、取り上げる話題を考え、共通点や相違点を整理することができる。
8	○小説「ベンチ」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、時代背景や登場人物の心情を想像することができる。 ・関連する他の文章を読み、自分の考えを広げることができる。

9	○説明的文章『『エシカル』に生きよう』 ○説明的文章「森には魔法使いがいる」	<ul style="list-style-type: none"> • 文章を読んで情報を整理し、引用の仕方や出典の示し方について理解することができる。 • 日常生活の中からSDGsに関する話題を決め、話し合うことができる。
10	○物語の始まり ー竹取物語ー ○故事成語 ー中国の名言ー	<ul style="list-style-type: none"> • 音読に必要な文語の決まりを知り、古文特有のリズムに親しむことができる。 • 文章を読んで、場面の展開や登場人物の相互関係、心情変化などを描写を元に捉えることができる。
11	○小説 「オツベルと象」 ○詩 「河童と蛙」	<ul style="list-style-type: none"> • 文章を読んで、作品の構成や展開、表現の効果について根拠をもって考えることができる。 • 文章を読んで課題を持ち、自分で考えをまとめることができる。
12	○文法 「文の成分」 ○書写 行書で書いてみよう ○2学期の国語学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> • 主語、述語、修飾語などの役割について理解することができる。 • 文の成分の組み立てについて理解することができる。 • 文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。
1	○説明的文章 「言葉がつなく世界遺産」 ○読み手を意識して報告文を整える	<ul style="list-style-type: none"> • 文章を読んで、事実と意見の関係を正しく捉えることができる。 • 段落ごとの要点に注意し、自分の考えの根拠を明確に書くことができる。
2	○詩 「四季の詩」 ○小説 「少年の日の思い出」	<ul style="list-style-type: none"> • 詩の情景や人物の心情を考え、読み取ったことを踏まえて朗読することができる。 • 文章を読んで、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化を正しく捉えることができる。
3	○文法 「単語のいろいろ」 ○3学期の国語学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> • 「自立語」と「付属語」の違いを理解することができる。 • 「活用のある単語」「活用のない単語」の違いを理解することができる。

3 その他

(1) 必要な持ち物・用意しておくもの等

教科書（文法授業では「図解で！わかる文法」）・ノート・漢字練習帳・国語のワーク

(2) 担当の先生から

毎日の生活の中で国語を意識して生活しましょう。

生活の中で本を読んだり、新聞を読んだり、文章を書いたりする機会を増やしましょう。

第1学年【社会科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

地理的分野の基本的な観点

①知識・技能

- ・世界の国々を大観し、日本との結びつきの基礎的内容を把握することができる。
- ・身近な地域についての地理的事象を他の地域との比較、関連させて理解し、それに関する知識を身に付けている。
- ・地図、統計などを適切に活用し、人々との生活の結び付きを明らかにすることができる。

②思考・判断・表現

- ・地理的事象を多面的・多角的に考察し、各地域の人々の生活と地理的特色との関係を考察することができる。
- ・地理的事象を白地図などに適切に表すことができる。

③主体的に学習に取り組む態度

- ・地理的事象に関心を持ち、世界の国々についての認識を養おうとする。

歴史的分野の基本的な観点

①知識・技能

- ・わが国の歴史の大きな流れと、各時代の特色などをわが国の歴史と関連ある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。
- ・年表や歴史地図・写真などの映像から、歴史的事象を見出し、事実関係を明らかにすることができる。
- ・様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し活用できる。また、それらをもとに、発表・レポート作成などができる。

②思考・判断・表現

- ・歴史的事象から課題を見出し、わが国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。
- ・現在の生活が、先人の努力によって成し遂げられたことに気づき、考察することができる。

③主体的に学習に取り組む態度

- ・歴史的事象に対する関心を高める、意欲的に追及する、積極的に取り組むことによって、わが国の文化と伝統について考え、国民としての自覚を持つようとする。

(2) 具体的な評価の方法

知識・技能の評価方法

- ペーパーテスト
- 文章を説明する内容やその様子

※ペーパーテストでは、事実に知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに考慮する。

思考・判断・表現の評価方法

- ペーパーテスト
- 論述やレポートの内容
- 発表の内容
- 授業中の発言
- グループでの話し合いの様子

主体的に学習に取り組む態度の評価方法

- ノートやレポートによる記述
- 授業中の発言や行動
- 教師による行動観察
- 生徒による自己評価や相互評価

2 授業実施計画

月	分野	大単元	小単元	学習のねらい
4	地理	世界と日本の姿	世界の姿	地理学習の基軸である知識・技能を身に付ける。 大陸・地域区分を知る。主な国名を理解する。大陸の形位置を捕え、略地図を描ける。
5			日本の姿	国土の位置と領域の特徴について理解する。他国との時差、標準時について理解する。各都道府県(都道府県庁所在地)名を理解する。
6		世界のさまざまな地域	世界各地の人々の生活と環境	世界各地の人々の生活の様子を、自然環境及び社会条件、宗教と関連付けながら、その多様性を理解する。
6	歴史	歴史へのとびら	歴史をとらえる見方・考え方	年代・時代区分・自己のテーマのとらえ方について理解する。
7		古代までの日本	世界の古代文明と宗教のおこり	道具の発達や社会の変化、古墳時代の時代背景について理解する。
			日本列島の誕生と大陸との交流	
9		古代国家の歩みと東アジア世界	事象の因果関係、人物の役割、社会のしくみについて理解する。	
10	地理	世界のさまざまな地域	世界の諸地域～アジア州～	「人々の生活と環境」で学習したことを活用し、アジアの人々の多様な生活を人口や民族の分布に着目しながら理解する。
			世界の諸地域～ヨーロッパ州～	ヨーロッパの国々の地理的な共通点や、生活の共通点に着目しながら、ヨーロッパの国々への結びつきが強い理由を理解する。
11			世界の諸地域～アフリカ州～	代表的なアフリカの国々の貿易品目や貿易相手国を比較し、アフリカ諸国に共通する特色や課題について考える。
			世界の諸地域～北アメリカ州～	アメリカやカナダの、大規模な生産や分布、世界を相手にした流通に着目し、農業や工業の生産力が高い理由を考える。
12			世界の諸地域～南アメリカ州～	伝統的に自然と関わりながら生活してきた人々が、森林伐採などの環境の悪化によって受けた影響を考える。
			世界の諸地域～オセアニア州～	多文化社会が進んでいることに着目し、オセアニアの各国が、アジアとの結び付きを強めていることを理解する。
1	歴史	中世の日本	武士の政権と成立	貴族から武士の社会への変化に気付く。鎌倉時代の産業の発達、民衆の成長、新仏教について理解する。
2			ユーラシアの動きと武士の政治の展開	大名の成長を基本として領国制、民衆の成長、戦国時代への移行について理解する。
3		歴史へのとびら	身近な地域の歴史	身近な地域に残る遺跡や博物館を調べ、年表のまとめ方や聞き取り調査の仕方を理解する。

第1学年【数学科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

【知識・技能】

正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。

【思考・判断・表現】

数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したり、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直感的に捉え論理的に考察したり、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察したり、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりする。

(2) 具体的な評価の方法

数学科では次のような項目から3観点に分けて、その到達度により観点別評価をつける。

○授業の取り組みの様子・発言、発表の内容 ○ノートや授業プリントの記述内容

○小テストや単元テスト、定期テスト ○振り返りシートによる自己評価など

※評価については、観点別評価のABCの数に応じて評価することを原則とする。

2 授業実施計画

月	単元・教材名	おもな学習のねらい
4 5	●正の数・負の数	・正の数と負の数の必要性と意味を理解すること、正の数と負の数の四則計算の意味を理解し、その計算ができるようにすること及び正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることを通して、具体的な場面でそれらを活用できるようにする。
6 7	●文字の式	・数量の関係や法則などを数や言葉の式、□、△などを用いた式に表してその意味を読み取ったり、数を当てはめて調べたりする活動を行うなどして、文字のもつ一般性について丁寧に取り扱い、文字に対する抵抗感を和らげながら漸次理解することができるようにする。
8 9	●方程式	・方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解し、等式の性質を基にして一元一次方程式を解く方法について考察し表現する。そして、それらを通して代数的な操作のよさを理解するとともに、一元一次方程式を具体的な場面で活用できるようにする。
10 11	●変化と対応	・具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の仕方に着目し、関数関係の意味を理解できるようにする。
12 1	●平面図形	・平面図形の対称性に着目することで見通しをもって作図し、作図方法を具体的な場面で活用する。こうした学習を通して、平面図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を養う。また、図形の移動について理解し、二つの図形の関係について調べることを通して、図形に対する見方を一層豊かにする。
2	●空間図形	・観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。
3	●データの活用	・データを収集、整理するときに、目的に応じて能率的な集め方、合理的な処理の仕方が重要であることを理解する。また、これまで確定した自傷を表すのに用いられてきた数を用いて、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり表現できるようにする。

3 その他

1週間に数回、チームティーチングを行います。2人の教員で1つのクラスを見て、授業を行います。

R6 第1学年【理科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通りに育成する。

【知識・技能】

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識や技能を身につける。

【思考・判断・表現】

観察、実験などを行い、科学的に探究する力や見通しを立てる力、さらに他者にわかりやすく表現し伝える力を身につける。

【主体的に学習に取り組む態度】

自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を身につける。

(2) 具体的な評価の方法

【知識・技能】

- ① 定期テスト ②ワークシート ③観察・実験操作 ④作図やグラフの作成
⑤ 自由研究

【思考・判断・表現】

- ① 定期テスト ②ワークシート ③観察・実験操作 ④グラフ・作図の作成
⑤観察・実験レポートの記述 ⑥自由研究

【主体的に学習に取り組む態度】

- ①学習過程を記録した成果物の記述 ②ワークシート ③自由研究

2 授業実施計画

月	単元・教材名	おもな学習のねらい
4 5 6	いろいろな生物とその共通点	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解する。 ・いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。 ・科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
7 8 9 10	身のまわりの物質	<ul style="list-style-type: none"> ・物質のすがた、水溶液、状態変化を理解する。 ・物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。 ・科学的に探究しようとする態度を養う。
11 12 1	光・音・力による現象	<ul style="list-style-type: none"> ・光と音、力の働きを理解する。 ・光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現する。 ・科学的に探究しようとする態度を養う。
2 3	生きてる地球	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害を理解する。 ・地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現する。 ・科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

※ すべての単元において「観察、実験などに関する技能を身に付ける。」を学習のねらいとしている。

第1学年【音楽科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

「知識・技能」

* 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけるようにする。

「思考・判断・表現」

* 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

「主体的に学習に取り組む態度」

* 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

(2) 具体的な評価の方法

①知識及び技能・・・・・・・・・・授業（取り組みの様子）・実技テスト・ワークシート等

②思考力、判断力、表現力等・・・・授業（取り組みの様子）・実技テスト・ワークシート
自己評価カード等

③学びに向かう力、人間性等・・・・授業（取り組みの様子）・実技テスト・ワークシート
自己評価カード等

評定 ①～③の観点を総合して評定を出します。

2 授業実施計画

学期	題材名	おもな学習のねらい
1	A 表現・歌唱：響きのある声でのびのびと歌おう。 曲想を感じ取り、形式を生かして表現を工夫しよう。 A 表現・器楽：アルトリコーダーの奏法を身に付け、演奏を楽しもう。 A 表現・創作：日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう。 構成や全体のまとまりを考えながら、音楽をつくろう。 B 鑑賞：弦楽器の音色に親しみながら、曲想を感じ取ろう。	級友とともに合唱する喜びを味わい、音楽学習への意欲・態度を育てます。 日本の名曲を歌うことで、言葉と旋律の流れを感じ取ります。 アルトリコーダーの基礎を身につけます。アルトリコーダーの運指を理解し、音色を生かして演奏してみます。 ことばのリズムやまとまりを感じ取りながらグループ活動を行います。 物語の進行と関係する曲想の変化を感じ取り、曲の特徴を鑑賞します。
2	A 表現・歌唱：混声合唱の響きを楽しもう。（合唱コンクール） 民謡の特徴を理解し、声の出し方を工夫して歌おう。 A 表現・器楽：右手の運指や低い音の奏法を身に付け、豊かに表現しよう。 A 表現・器楽：箏の音色を味わいながら、基本的な奏法を身に付けよう B 鑑賞：音楽の特徴を捉えながら、聴き深めよう。 箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう。	混声合唱の美しさを感じ取り、クラス全員で協力して練習に取り組み聴き手を感動させる合唱を作り上げます。 日本の名曲を歌うことで、言葉と旋律の流れを感じ取ります。 アルトリコーダーの運指を理解し、音色を生かして演奏します。 和楽器に触れることを通して、わが国の伝統音楽に親しむ態度を育てます。音楽の特徴を聴き取り、情景と曲想のかかわりを感じ取りながら鑑賞します。
3	A 表現・歌唱：歌詞の表す心情を感じ取り、気持ちを込めて合唱しよう。＜卒業式歌＞ A 表現・器楽・創作：リズムの重なりを楽しさを味わおう。 B 鑑賞：我が国やアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞しよう。	1年間の学習の成果を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って響きのある声と美しい言葉で混声合唱曲を歌い上げます。 アルトリコーダーでアンサンブルをし、心地よい音色を感じ取ります。 郷土の音楽・アジアの音楽を聴き、楽器やメロディーに関心を持ちます。

3 その他

＜使用教材＞

*教科書「音楽1年」、「器楽」、*合唱曲集、*アルトリコーダー（個人で所有）、*ファイル 他

第1学年【美術科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

「知識・技能」

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。

「思考・判断・表現」

自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

「主体的に学習に取り組む態度」

楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を想像していく態度を養う。

(2) 具体的な評価の方法

①知識・技能…

授業（制作・取り組みの様子）、ワークシート、作品、期末テスト 等

②思考・判断・表現…

授業（制作・取り組みの様子）、ワークシート、作品、期末テスト 等

③主体的に学習に取り組む態度…

授業（制作・取り組みの様子）、ワークシート、作品、期末テスト等

2 授業実施計画

月	単元名	おもな学習のねらい
1 学期	オリエンテーション「中学校美術の世界へようこそ」「美術との出会い」	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の美術の授業についての取り組み方法と課題を理解します。 美術の授業、美術室のルールを確認します。 教科書の作品を鑑賞し、表現を発見します。
	「見つめると見えてくるもの」	<ul style="list-style-type: none"> 身近にあるものの形、色彩、明暗、質感などを観察し、その特徴や美しさを感じます。 鉛筆、描画材料の使い方を理解し、意図に応じて表現します。 作品を鑑賞し、作者の意図や工夫について話し合います。
	「ニッポン絵文字の旅」	<ul style="list-style-type: none"> 日本各地それぞれの特徴などから発想します。 レタリングと色彩について学習し、絵文字を構想します。 描画材料の特性を理解し、イメージに合った描画と彩色をします。 作品を鑑賞し合い、作者の意図や工夫について話し合います。
2 学期	「日常の中の美術」「美術館へ行こう」	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で接するものに、美術が関わっていることを知ります。 美術館について学習し、美術館が身近で楽しいものであることを発見します。 夏休み中に美術館へ行きレポートを書きます。
	「じっくり見ると見えてくる」	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものを観察して、特徴をとらえ、または何かに見立ててアイデアを考えます。 構成や材料、用具を工夫して立体で表現します。 作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合います。
3 学期	「暮らしに息づく土の造形」	<ul style="list-style-type: none"> 身近な焼き物から用途や機能性について考えます。 使う目的や機能、美しさなどから形を考えます。 土の特性を生かしながら、作りたいものに合った技法で制作します。 実際に料理などをのせた写真を使って事後レポートを作成し、よさや工夫について話し合います。

3 その他

〈使用教材〉

教科書・アクリル絵の具・ファイル 他

第1学年【保健体育科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

【知識・技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

(2) 具体的な評価の方法

単元毎にそれぞれの学習場面や活動を3つの観点に分け、その到達度により観点別評価をつける。

- 授業の取り組みの様子(技能・理解・表現・態度・マナー・安全)
- 発言状況(発言、発表、助言、炫ぎ)
- 定期テスト・実技テスト(得点・記録・フォーム・スキルポイント)
- 学習カード(自己評価・相互評価・気づき・感想)

2 授業実施計画

月	単元・教材名	おもな学習のねらい
4 5 6 7	体育理論	各種の運動特性と学び方、安全の確保の仕方、体ほぐし・体力と心身の働き等について理解するとともに、積極的な運動の実践ができるようにする。
	体づくり運動	運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。
	球技Ⅰ (バレーボール)	基本的な技能やボールや用具、バットの操作などを身に付ける。また、球技の学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすることや分担した役割を果たすこと、話合いに参加することなどができる。さらに、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組みを工夫できるようにする。
	球技Ⅱ (ソフトボール)	
7	水泳	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。また、泳法の学習に積極的に取り組み、水泳におけるルールやマナーを守り、分担した役割を果たそうとしている。技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
9	器械運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、技の行い方や練習の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
10 11	陸上Ⅰ・Ⅱ (短距離走・リレー・走り幅跳び)	自己の最大のスピードを高め、個人やチームのタイムを短縮したり、競争したりできるようにする。走り幅跳びでは助走スピードを生かして素早く踏み切り、より遠くへ跳んだり、競争したりできるようにする。
12	陸上Ⅲ(長距離走)	長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。
	ダンス	感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。
1	武道 (柔道)	技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。また、伝統的な行動の仕方を守るなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
2 3	球技Ⅲ (バスケ・サッカー)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わうとともに、基本的な技能を身に付ける。また、球技の学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすることや分担した役割を果たすこと、話合いに参加することなどができる。さらに、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
	健康な生活と疾病の予防 心身の機能の発達と心の健康	健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めることができるようにする。

第1学年【技術・家庭科（技術分野）】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

【知識・技能】生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解することができる。

【思考・判断・表現】生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。

(2) 具体的な評価の方法

以下の項目をそれぞれの観点に分けて評価する。

○授業中の取り組み状況 ○作品の製作過程 ○学習過程における習熟状況 ○完成した作品

○生物の管理状況 ○自己評価 ○レポート ○学習プリントの記入状況 ○ペーパーテスト 等

2 授業実施計画

月	単元・教材名	おもな学習のねらい
4	○ガイダンス ○コンピュータの基本操作 ・基本操作と各装置の役割 ・コンピュータの利用（ワード） ○生物の育成環境と育成技術（野菜） ・生物の育成計画と栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学習の見通しを理解する。 ・コンピュータの操作の基礎が出来る。 ・生物の計画的な管理方法を知る。 ・適切な管理作業ができる。
5	○情報通信ネットワークの活用 ・ネットワークの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用して、自分の望む情報を探す。 ・ネットの使い方について知る。
6	○身のまわりにあるいろいろな材料 ○性質と特徴 ・木材の性質 ・木材の加工方法	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の使い方を知る。 ・材料の特徴について知る。 ・木材の性質を知る。
7	○製作学習（木材加工作品） ・機能の研究 ・構造の研究 ・加工法の研究 ・材料の選定 ・設計のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・使用目的に合う機能や構造を知る。 ・木材の加工法を知る ・使用目的に合った設計について考える
9	○製作	<ul style="list-style-type: none"> ・工具、機器を用いて、正確に作業をさせる。
10		
11		
12		
1		
2		
3		

第1学年【技術・家庭科(家庭分野)】シラバス

1 評価について

(1) 評価の観点と方法

【知識・技能】 毎時間の学習への取組状況、定期テスト、実技テスト、作品・提出物況等で評価

【思考・判断・表現】 毎時間の学習への取り組みの工夫、製作計画のたて方、作業の進行状況、作品の工夫点、提出物の状況等で評価

【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間の学習への取組状況、技・家ノート、製作計画・記録、作品・提出物の状況、および授業の準備等で評価

(2) 授業の受け方・学習の進め方

- ・安全な活動を心がける。(道具、用具類の扱い方や周囲への配慮等)
- ・忘れ物をしない。提出物の期限を守る。(準備を整えて授業に臨む姿勢、取組み方等)
- ・積極的に参加する。(指示に従って正しく作業する。自分で考え工夫しよりよいものを追求する。)
- ・調べる→理解する→実際にやってみる→評価する→さらに工夫創造を加えて生活に取り入れる。

2 授業実施計画

1 学 期	1 ガイダンス	・家庭科3年間の学習は、小学校で学んできたことをさらに発展させる内容であることを確認する。
	・小学校の学習内容 ・家族との関わり、家庭の仕事	・家庭の仕事に関心を持ち、家族の一員としての自覚と自立について考える。
2 学 期	2 自分らしく着る	・衣服の社会的役割りについて基本的な考え方を学ぶ。
	・日常着の活用 ・衣服の手入れと補習 ・基礎縫い実習 ・自分らしさを表現	・個性を生かした着用についても工夫し、表現できるようにする。 ・取り扱い表示について学習し、適切に選択できるようにする。 ・日常着の手入れ、補修の方法を知り、適切な手入れが工夫してできるようにする。 ・簡単な被服作品で、裁縫用具を安全に正しく扱い、また自分らしさを表現できるようにする。
3 学 期	3 食生活を自分の手で	・食事の役割や健康との関わりについて関心を持ち理解を深める。
	・健康と食生活 ・食品の選択と保存	・食品の栄養的特質から食品群を正しく理解する。 ・身近な食品に関心を持って、用途に応じた適切な選択ができる。 ・生鮮食品と加工食品、それぞれの特徴を理解しまとめることができる。 ・腐敗の原理から、食品の保存方法、種類を理解する。 ・加工食品の表示、容器包装識別マークなどを読み取ることができる。
3 学 期	・調理の基本	・食品の調理上の性質について理解を深める。
	・調理実習	・加工食品を適切に利用し、献立と調理のバリエーションを広げる。 ・安全面、衛生面に注意を払い、作業の能率を考えた調理実習ができる。 ・食品や調理用具を適切に取り扱うことができる。 ・食事のとり方、献立の作り方を工夫することができる。
	4 計画的な金銭管理	・多様化した購入方法や支払い方法について知り、計画的な金銭管理の必要性がわかる。

第1学年【G・S科】シラバス

1 評価について

(1) 観点及びその趣旨

【知識・技能】

- ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。
- ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して伝えあったりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 具体的な評価の方法

- 定期テスト ○パフォーマンステスト ○宿題や課題テスト、小テスト ○コミュニケーション活動
○論述やレポート ○作品の制作や表現 ○ノート等の記述 ○発表 ○グループ活動 等

2 授業実施計画

月	単元・教材名	おもな学習のねらい
4	Classroom English Get Ready Program0 アルファベットを確かめよう	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で用いられる英語表現を理解することができる。 ・聞き取った情報を参考に、好きな食べ物や行きたい国などについて、話したり書いたりすることができる。 ・友だちとの対話や先生へのインタビューを通して、即興でやり取りをすることができる。 ・調べたことや小学校で学んだ表現を使って、日本の名所を紹介する英文を書いたり、写真などを用いながら発表したりすることができる。 ・アルファベットの形、つづり字、発音について理解することができる。
5	辞書を引いてみよう PROGRAM 1 Let's Make Friends! (友だちを作ろう)	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書の引き方について理解することができる。 ・新しいクラスの友達に自分のことを伝えるために、自分の好みなどについて、紹介したいことを話したり、相手からの質問に答えたり、相手の好みについて質問したりすることができる。
6	Word Web 1 数の言い方 PROGRAM 2 You are a School Reporter (1-Bの生徒たち) Word Web 2 曜日と天気の違い Steps 1 英語でやりとりしよう① アクションコーナー PROGRAM 3 Let's Have a Talent Show (タレントショーを開こう)	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や電話番号、値段などの言い方を理解し、正確に聞き取ったり、伝えたりすることができる。 ・相手の興味深い情報を得るために、学級の友だちについて知りたいことを整理して質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・曜日や天気などの言い方を理解し、やり取りすることができる。 ・質問のやりとりをすることができる。 ・命令文の表現を理解し、正確に聞き取ったり、やり取りしたりすることができる。 ・タレントショーで伝える自分の情報を話し合いで決めるために、自分ができることやできないことについての事実を、既習言語や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
7	Steps 2 考えを整理し、表現しよう Our Project 1 あなたの知らない私	<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングを活用しながら、自分の好きなことについて発表することができる。 ・即興で、相手にわかりやすく自己紹介ができる。 ・内容を整理して、まとまりのよいスピーチ原稿を書くことができる。
8	Power-Up1 ハンバーガーショップに行こう	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した状況に応じて、メニュー表を見ながら、店員役と客役に分かれてやり取りすることができる。

9	<p>PROGRAM 4 Let's Introduce Japanese Things! (Let's Enjoy Japanese Culture.)</p> <p>Power-Up2 持ち主をたずねよう</p> <p>PROGRAM 5 Saitama International Junior Ambassador (Junior Safety Patrol)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外の人々に、日本のことを知ってもらうために、日本の発明について紹介したいと思うものをマナー良く話すことができる。 which や whose の表現を使いながら、持ち主についてやり取りするスキットを作成し、発表することができる。 さいたま市のジュニア大使として、外国の人にさいたま市の魅力を伝えるために、地元ゆかりのある有名人についての情報や自分の考えを話すことができる。
10	<p>Word Web3 季節・月の名前</p> <p>PROGRAM 6 My favorite movie(The Way to School)</p> <p>Power-Up 3 道案内をしよう</p> <p>Power-Up 4 店内放送を聞こう</p> <p>Word Web 4 順番・日付の言い方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 季節や月の名前などの言い方を理解する。 海外の友だちに好きな映画を紹介するために、登場人物や内容について説明したり、相手からの質問に答えたりすることができる。 駅ビルの地図を見ながら、客役とスタッフ役に分かれてやり取りすることができる。 店内放送を聞いて、その内容を理解することができる。 順番や日付などの言い方を理解し、やり取りすることができる。
11	<p>PROGRAM 7 Let's Teach about Japan Online! (Research on Australia)</p> <p>Steps 3 話の組み立て方を考えよう</p> <p>Steps 4 英語でやり取りしよう②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外の友人に紹介するために、選択したさいたま市や日本文化について簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話すことができる。 わかりやすい構成を考えながら、あるトピックについて自分の考えを発表することができる。 さまざまな疑問文を用いて、やりとりをすることができる。
12	<p>Word Web5 疑問詞のまとめ</p> <p>Our Project 2 この人知っていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな疑問詞の使い方を理解し、やり取りすることができる。 マッピングを活用し、紹介したい人について、話す内容や順番を考え、書いたり、発表することができる。
1	<p>Power-up5 インタビューを聞こう</p> <p>PROGRAM 8 World Festivals (The Year-End Events)</p> <p>Steps 5 絵や写真を英語で表現しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> インタビューを聞いて、その内容を理解することができる。 海外のイベントに「行ってみたい」と思ってもらうために、世界の祭りの様子について、調べて分かった事実や自分の考えを発表したり、友だちの発表を聞いて適切な質問をしたりすることができる。 絵の情報について適切な英語を用いて表現できる。
2	<p>PROGRAM 9 Writing a Letter (A Trip to Finland)</p> <p>Steps 6 文の内容を整理し、表現しよう</p> <p>PROGRAM 10 Skits(Grandma Baba's Warming Ideas!)</p> <p>Steps 7 英語でやりとりしよう③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏に住む外国の友達に手紙を送るために、自分の経験や考えを相手の国の習慣や手紙の形式に気を付けながら親しみを込めて、わかりやすく書くことができる。 図表を活用しながら、PROGRAM 8、9の内容についてわかりやすく説明できる。 異文化理解を深めるために、登場人物の心情や物語の背景等について考察しグループで話し合いながら英語劇を作成し発表することができる。 現在・過去進行形・過去形の疑問文を使って、適切に質疑応答ができる。
3	<p>Our Project3 私が選んだ1枚</p> <p>Power-Up 6 絵はがきを書こう</p> <p>Reading Steps</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ絵や写真について、メモやマッピングをもとにわかりやすく情報を整理し、紹介をすることができる。 聞き手のコメントや質問に対応することができる。 モデル文を参考にしながら、絵はがきを書くことができる。 物語や説明文などを読んで、内容を理解し、自分のことや考え、知りたいことなどを書くことができる。

3 その他

英語の5領域（聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと）を総合的に育成し、文法事項と言語活動を一体的に行う。